

第4回 将来ビジョン検討会議 炭谷氏スピーチ概要

「福井県の環境課題と今後の方向のポイント」

(地球温暖化の進行)

- ・環境の問題について考える時に4つの大きな問題に集約される。その第一が地球温暖化の問題である。3年前（平成19年6月）のアンケートによると環境問題の中で最も関心の高いのが地球温暖化問題で61%となっている。また、昭和38年や56年の豪雪と比べて最近の雪の降り方が突然であったり、時期外れであったり、こういうことから福井県民は温暖化を肌で感じているのではないだろうか。
- ・実際、世界の科学者からなるIPCC（気候変動に関する政府間パネル）では、地球温暖化の原因は、90%以上の確率で人為的つまり化石燃料を燃やすことで温室効果ガスが増大したためだとしている。
- ・確かに、ここ100年間で世界の気温は0.67℃上昇している。日本は1.1℃上昇しており、日本の方がより温暖化が進んでいる。世界の気温は今世紀末には最大6.4℃、海面は最大59cm上昇し、異常気象、食料不足、水不足などで人類は滅びるだろう。
- ・それではどうしたらよいか。昨年12月のCOP15で産業革命前の時点から2℃以内に留めることが必要であると意思決定されている。世界で見ると既に0.67℃上昇しているので残り約1.3℃である。
- ・このためには2050年までに温室効果ガスの排出を半減しなければならない。これには科学的根拠がある。2℃上昇するのは2050年頃と言われ、地球からの温室効果ガス排出量は230億t、海、土、植物の吸収分が110億t、半減すれば、温室効果ガスの量は増えないだろうということである。しかし、最近、排出量は290億tと言われ、半減では足りず、さらに抑制しなければならない。
- ・それでは、日本も半減すれば済むのかというところそういう訳ではない。途上国が全体の半分を排出しており、先進国としては80%の削減が必要である。とすると現在の20%の排出に抑えなければならず、ほとんどCO₂を排出してはならないという状況である。現在の経済、社会のシステムの全面的な変更が必須であり、当面急増する「業務」「家庭」「運輸」部門への対策が急務である。
- ・中国は温室効果ガスの排出量でアメリカを抜いて世界第一位になった。また、インドは日本より少なかったが日本を抜いて世界第2位になった。中国、インドも

先進国同様の削減努力が必要である。

(資源の大量消費・大量廃棄)

- ・第二の問題は資源の大量消費・大量廃棄であるが、日本は毎年18億tの資源を使って生活している。そのうち8億tは石油、石炭、木材、農産物等輸入である。18億tの中身をみると12%だけがリサイクルである。ということは、88%は常に新しいものを取り出している。資源はいつか枯渇するわけで限度がある。
- ・国の循環型社会基本計画では2015年までに循環型利用率の目標を14～15%としているが、これは低すぎるのではないか。もう少しピッチをあげて、最終的には1/3～1/2にしないと地球の資源は持たないのではないか。

(生物多様性の減少)

- ・第三の問題は生物多様性の減少である。地球上には3,000万種の生物がおり日本は生物を大切にしてきた国である。
- ・生物多様性とは何かというと政府は「人間生存の基盤、安全性の基礎、有用性の源泉、文化の根源である」としている。例えば、水・食料は生物多様性からきている。また、タミフル、アスピリンは生物由来のもので、私たちは生物から生存の糧を得ていると言える。私なりに言うと、生物多様性は「自然の恵み」ではないかと思う。

(環境汚染)

- ・第四の問題は環境汚染である。水質汚濁、大気汚染は解決し無くなりつつあるが、まだこの分野には重要な問題がある。例えばアスベスト。これは労働安全衛生の一つではないかと思う。また、土壌汚染はこれからの問題ではないかと思う。
- ・環境汚染は新たに発生する恐れが常にある。「ナノ物質が人体に影響を及ぼす恐れがある」と教えてくれた科学者がいるが、これらには被害が大きくなる前に予防原則によって対処する必要がある。

(環境問題を把握するに当たっての基本的視点)

- ・さて、この4つの問題について別の角度で捉え直してみると3つの基本的な視点がある。
- ・まず、実はこの4つの問題は相互に関連がある。例えば、地球温暖化は生物多様性に影響を与える。地球温暖化が進むと生物が減んでいく。廃棄物が出てくれば生物多様性に影響を与える。生物多様性は地球温暖化に影響が出る。このように

相互関連性があり、一つに対策を講じれば他の問題の解決にも役立つ。

- ・次に、4つの問題の根っこにあるのは環境の基本的な要素、つまり、水、土壌、大気、生物である。この環境の要素を深く捉えてより豊かにする創造的環境政策が重要である。例えば、水について言うと、これまでの環境政策は水質汚濁をいかに防ぐことであったが、これからは豊かで清浄な水をいかに確保することである。これに苦しんでいるのが中国で、中国が限界にぶつかる一つは水問題であろう。
- ・最後に、環境問題だけでなく経済、社会との関連で横に広く捉えることが重要である。そのことにより、それぞれが上昇していくのではないか。

(福井県における今後の環境の取組み方向)

- ・このような問題を受けて、福井県ではどのように取組んだらよいか私の考えをお話しさせていただく。
- ・第一に、福井県は環境の面で日本のトップを行っている県であろう。平成20年11月に策定された福井県環境基本計画は、大変分かりやすく具体的な計画になっている。これを着実に実行していくことである。世界、日本の環境の流れに乗って福井県は日本で環境のトップを行くという宣言をし、まちづくり、産業おこしに力を注いでいくことが重要である。
- ・第二に、環境の観点からの産業振興、グリーン産業である。福井県は原子力発電により地球温暖化に貢献しているが、併せて太陽光、太陽熱、マイクロ水力発電、バイオマス、風力発電等の再生可能なエネルギーに力を注いでいくことで、森、山、川、水等の福井県の豊かな環境資源を有効に使っていける。中でもバイオマスが有効でないかと考える。
- ・また、3R産業であるが、私は世の中には3Rの対象にならないものは一つもないと考えている。このような観点から昨年7月に北陸グリーンエネルギー研究会を発足させた。廃アルミニウムに苛性ソーダをかけることで水素が発生する。昨年12月には福井市でその動力で燃料電池を動かシイルミネーションを点火した。来年は病院の電力を動かし、再来年はトラックを動かす予定である。廃アルミニウムは家庭から出るものである。
- ・さらに、環境関連産業も様々あり、また、環境価値を高める企業、団体が評価される。福井県の企業は環境熱心であるということになれば、福井県の企業のブランドが上がっていくのではないかと思う。

- ・第三に、環境から県民生活を豊かにしていくということであるが、福井県は女性の社会進出が進んでいるだけではなく、同時に（普通は女性の社会進出が高くなると低くなる）出生率も高いという全国唯一の例であり、社会面で優れている。このことと環境をいかに結び付けていくか、環境と社会を相互に向上させていくことが重要である。福井県は少子高齢社会と環境というこれから日本で取組んでいかなければいけない問題をうまく解決している、また解決できる県だと思う。
- ・次にソーシャルファームであるが、障害者、高齢者、ニートなどの若者の働く場としてヨーロッパにはソーシャルファームという手法がある。ヨーロッパには一万社あるが、日本では二千社設立に向けて活動中である。事業の対象として環境が有望である。
- ・最後に子どもたちへの環境教育。これが、福井の環境を発展させる基礎となる。子どもたちが県内の自然、外国の環境問題に関心を持ってくれば、福井県は環境に対して充実してくるであろう。

以上